

中学校におけるソフトボールの授業実践 —ゲームを中核にした授業づくりから—

小出 高義¹, 安藤 初美²

Practice of softball class in junior high school —From the creation of classes with the game at the core—

Takayoshi Koide¹ Hatsumi Andou²

Abstract

This study explores a junior high school class's experience with softball. In Japan, softball was a mandatory part of physical education at every junior high school in 2012. However, since the class study is not active, the number of practice reports is small. Therefore, it is necessary to disclose the practice report to the school where the softball class will be conducted.

We established a 10-hour physical education class in which students could learn spontaneously. To support student interests, we did not enforce the teacher's ideas on the students but instead promoted activities in agreement with student will.

When general, learning a sport for the first time takes a great amount of time?we must practice skills repeatedly in order to master them. When done in-class, such initial practice reduces the amount of time available with which students can play the game itself. Therefore, we encouraged the leaders of each team to discuss practice within the group at large and promote different kinds of activities according to what each team needed.

Ultimately, the majority of students in our questionnaire reported that they had fun and that they wanted to perform this activity again. To facilitate deeper learning, we advise that educators plan two-hour softball lessons.

key words: softball classes, junior high school, physical education

I 緒 言

平成20年発行の中学校学習指導要領解説保健体育編(以下, 解説)では, 球技が「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の3つの型に分類され, 中学1・2年生で必修となった。生徒は様々なタイプの球技種目に触れることができる反面, それまで「ベースボール型」の授業を実践していなかった学校では, その指導に苦慮してい

ることは想像に易しい。さらに解説では, ベースボール型の授業で取り上げる運動種目を「ソフトボール」としており, 平成29年告示版でも同様の扱いとしている(文部科学省, 2009)(文部科学省, 2018)。

このベースボール型の授業(ソフトボール)の課題としては, 岩間ら(2014)^{注1)}が「①他のスポーツ種目と比べて個人差が大きいこと, ②技能レベル, ルール理解が低い上, 習得に時間がかかること, ③運動量の確保が

1. 北海道教育大学旭川校
〒070-8621 旭川市北門町9丁目
2. 富良野小学校
〒076-0032 富良野市若松町10番1号

1. Hokkaido University of Education Asahikawa
Hokumoncho Asahikawa 070-8621
2. Furano Elementary School
10-1 Wakamatsucho Furano 076-0032

著者連絡先 小出 高義
koide.takayoshi@a.hokkyodai.ac.jp

できないこと、④用具を揃えるのが予算的に難しいこと、⑤安全に配慮したグラウンドの広さを確保できないこと」などを挙げている。かさねて体育授業では「ソフトボールを教材として採り上げはするものの、単元展開ではゲームをせずに練習に留めたり、ハンドベースボールやキックベースなどソフトボールとは違うベースボール型の種目に変更したりしている。」と指摘している。

ところが、ソフトボールの授業研究については、これまで鈴木（2009）、北（2009）、竹田（2003）などが報告しているものの大学生を対象としており、中学校での授業実践例や具体的な指導方法に関する研究報告数は、他の球技種目と比べ乏しい状況にある。そのなかでも、川原（2012）は全13時間中の9時間を、榎本ら（2006）は12時間中6時間を、近藤ら（2011）は10時間中7時間を個人技能の向上にあて、残り時間をゲームとした実践を報告している。これは、前述の岩間が指摘したソフトボールの課題①および②と関係しつつも、ソフトボールの構造的特性を重視した授業のつくりとなっている。

授業づくりに関しては、「球技の学習において、単元として取り上げる種目そのものが、学習の目的であるとともに学習内容である」「ゲームこそ種目であり、学習内容ということになる」と、永島（1992）が述べている。また、そのゲームの扱い方について佐伯（1980）は「ゲーム型の種目では勝敗の未確定性がとりわけ重要である。創意・工夫・努力すれば勝てるかもしれないという状況が自発的な学習を生み出すからである。」とし、勝敗の未確定について強調している。このことから、中学1年生でソフトボールに習熟していない場合にも、基礎技能の向上に多くの時間をあてるのではなく、ゲームを中核としたソフトボールを丸ごと味わえる授業づくりの必要性を感じる。

そこで本研究の目的は、中学一年生のソフトボールにおいて、ゲーム中心の授業展開がどのような手立てにより可能となるのかを、映像を手がかりにした授業記録の分析と生徒へのアンケートから明らかにすることである。さらに、ここで単元展開を授業記録として示すことは、今後のソフトボールにおける授業づくりの資料として有用となると考える。

Ⅱ 方 法

1. 対象・期間

旭川市内のF中学校1年C組、男子18名女子19名の計37名を対象に、2016年7月1日～25日に実践した1単位時間50分のソフトボール授業10回を研究対象とした。授業者は、教育実習のみの教壇経験を有する女子学生である。

2. 分析・授業構想

実践した授業をビデオで撮影し、その内容を文字に起

こし授業記録とした。そこから授業内容について振り返るとともに、授業者が実践中に感じた内容を分析対象とした。また、ソフトボールの学習前の生徒たちに、「ソフトボールの経験」「授業で楽しみにしていること・不安なこと」「どのような授業にしたいか」などについて事前アンケートを実施した。さらに、単元終了後に「ソフトボールへの志向性の変化」「授業に対する満足度や意見」について事後アンケートを実施した。これらに対する回答は4件法を用い、その理由については自由記述を求めた。（アンケート回収率は97.2%であった）

本研究の構想段階では、対象学級の実態が掴めなかったため、教科担任からの情報や事前アンケートで得られた情報を基に学びの姿を予想し、以下のように単元計画を立案した。

段 階	主な内容	評 価
はじめ 1～3	ソフトボールに必要な技能（打つ・投げる・捕る・走る）を一通り身に着ける	<知識> <技能>
な か 4～7	自分たちのチームの課題を見つけ、さらにその課題を解決しながらも、個々の技能向上を目指すゲームを楽しむ	<思考・判断> <技能>
まとめ 8～10	相手チームの特徴に応じた作戦を立て、総当たりのリーグ戦を楽しむ	<思考・判断> <関心・意欲・態度>

また、生涯スポーツの基礎を築くという観点から、男女混合の4チーム編成とした。この男女共習について、鈴木（1992）は「我々が育てようとしているのは、『男女』や『年齢』の違いを含むあらゆる面で自分とは異なる他者と上手に運動を楽しむことができる、自立した生涯スポーツの実践者なのである。」と述べている。そこで、チーム内での教え合いや男女間で互いに尊重しながら、スポーツに取り組む態度を養うことを狙った。

さらに、高橋（2015）の先行研究と日本ソフトボール協会が示している「学校体育ソフトボール」を参考に、未習の生徒でも安全に使うことのできる用具を選定した。バットは、ソフトボール用のものと、ティーバッティング用の軽いゴム製バットを用意し、生徒に選択させた。ボールは学校体育検定ボール^{注2)}を用意した。

授業者がソフトボールの競技経験者であり、その魅力を十分理解しているという観点から、その楽しさを生徒に押しつけるような授業にならないよう心掛けた。かさねて生徒自身にソフトボールの楽しさを見出して欲しいという願いもあり、技能指導に力を入れすぎないことを心掛けた。そこで本実践は、授業者の不安感は大きかったが、生徒と常に明るく元気に接し、授業の雰囲気盛り上げるよう努めた。さらに、生徒とのコミュニケーションを丁寧にとることを意識し、指導が円滑に進められるよう配慮した。

Ⅲ 結 果

本実践における授業記録は、ビデオ撮影した内容から教師と生徒の対話および主な活動について示す^{注3)}。

1 1回目授業 7月1日(金)

- T 1 こんにちは。紹介いただきましたAです。よろしくお願いします。
- S 1 よろしくお願いします。
- T 2 なぜソフトボールの授業をやらせてもらうかという、私はソフトボールをやっており、中学・高校とピッチャーでした。みなさんにはソフトボールの楽しさを授業で伝えたいと思ひまして、それだけで授業をやらせてくださいとお願いしました。この授業を通してみなさんに期待しているのは「みんなでソフトボールを楽しめるようになろう」ということです。



図1 全体説明

- 事前にアンケートを取らせてもらった、楽しみだっけ書いてくれた人もいたけど、ルールわかんない、ボール怖いって人もいたので、そういう人も楽しめるように工夫して授業していきたいと思ひますので、みなさんも協力してください。
- T 3 授業を進める上で、安全に楽しくやるためにルールをいくつか決めました。本当に基本的なことです。爪を切っておく 髪の毛を縛る 靴をきちんと履く 周りをよく見ると書いた画用紙を提示 安全に楽しく行いましょう。いいですか？
- T 4 今日はずソフトボールに慣れます。課題提示「ソフトボールの特性を知り、用具に慣れよう」。今日はキャッチボールしますが、グローブの使い方がわかっている人もいますが、確認します。胸より上のボールはグローブの先を空に向けて、胸より下のボールはグローブの先を地面に向けて捕球します。

※初対面での授業で、お互いに緊張していた。生徒

は、真剣に話を聞いてくれ、この授業のねらいや、本時の課題をよく理解してくれていると感じた。

- T 5 じゃあまず、体操から。(教師が前で示範する)
- T 6 キャッチボールしてもらいますが、白い線に一人と向こう側に一人で、この向きでやってください。(キャッチボールを男女別のペアで行う。)
- T 7 一回ストップしてください。えっと、グローブの向き、女子に多いけど、グローブの使い方見てください。(野球部男子生徒にお手本をやらせる)
- ※授業者の指示が曖昧であり、場所や行い方をもっと具体的に示し、活動を充実させたかった。女子は投げ方がぎこちなく、キャッチボールを多く行う必要性を感じた。近い距離でのキャッチボールは、できる生徒にダレを生じさせたため、男子にはピッチャー投げ(ウインドミル)をやるよう声を掛けた。
- T 8 では、ボールとグローブを戻して最初と同じように並んでください。キャッチボールは難しかった？グローブの使い方はわかった？
- T 9 次回からチーム分けをして、練習していきます。
- S 2 どうやってチーム決めるの？
- T 10 S先生と相談して決めます。

2 2回目授業 7月4日(月)

- T 1 今日はあいにくの天気により体育館ですが、ここでソフトボールの練習をします。まず体操。(教師が前で指示・示範)
- T 2 これからは体操からランニングまでチームごとにやってもらいます。ランニングはただグラウンドぐるぐる走ってもつまらないので、ベースランニングをやってください。(実際に示範)今日は室内なので、コーンをベースに見立ててやります。コーンタッチ、外だったらベースを踏んでください。
- S 全員 ベースランニングを行う
- T 3 じゃあ、チーム発表します。(チームを発表)みんなチームわかった？
- T 4 今日は、ボールを打つ感覚を味わってください。(模造紙を使って、練習方法とボールの方向を指示)2チームがティーのボールを打ち、2チームがそのボールを取って守備の練習とします。ティーを体育館のステージ側に置くので、入り口側で守備についてください。
- S 全員 チームで練習(巡視により、守備やバッ

ターへのアドバイス)

T 5 全員打った?じゃあ、グローブをしまって最初のところに並んで。(学習カード配布し、今日の反省を記入させた)課題は見つけられましたか?

※雨天であったが体育館での活動計画を準備していなかったため、グラウンドで行う内容を体育館で実施することとした。活動場所の狭さやグループの人数の多さから、退屈してしまう生徒や手持ち無沙汰の生徒が出てしまった。

T 6 明日はたくさん外で打てると思います。じゃあ今日はこれで終わります。

※本時は、満足できる内容でなかったことが窺えた。授業者自身も計画した内容が消化不良で反省の多い授業となった。そこで雨天時の代案準備の必要を感じた。

3 3回目授業 7月5日(火)

T 1 今日は大学からも道具を何個か持ってきたので、昨日よりたくさん打てると思います。体操してからランニングまで時間は5分間にします。はい、用意スタート!

T 2 オレンジのベースを踏んで!元に戻って、並んだら腰下ろしてください。さすが、素晴らしい!ぴったり5分です。

※女子はテキパキと活動に入ったが、男子は活動に入るまでに少し時間がかかった。しかし、ランニングは女子よりも早く終わっていた。声を出し、盛り上がっている様子が見られた。予告した活動時間内に終了することができ、生徒も得意気だった。前時は満足できる活動とならなかったので、早く主活動(バッティング)に入れたそうであった。

T 3 さっさとやりましょう。打ちましょう。今日みなさんにやってほしいことは「攻撃力をもとに、力が均等な男女混合チームを作ろう」です。何で男女混合にこだわるかという、男女仲良くやってほしいのだけど、その中で女子は男子の行い方を見て「こういう風にするだ。」と学んで欲しいし、男子も女子にどんだんアドバイスして欲しいからです。

T 4 昨日は一緒にやったけど、今日は男子と男子、女子と女子で、4か所でやってもらい、その中で誰がどのくらい打撃力があるかを元に、男女混合のチームを4つ作ります。

T 5 昨日は1人3球だけだったので、今日は1人3球を2周、または3周目とどんだんやりましょう。今日意識してほしいことは、打つと

きにボールをよく見ているか、ボールの中心をちゃんと打っているか、バットを速く振れているか。上体を前に突っ込まないように、コマを回すように軸をしっかり回すように打つことです。

S 全員 チームごとバッティング練習

※グラウンドで思い切り打てることを楽しんでいただようだ。遠くに飛ぶと笑顔で、笑い声も多く聞かれた。活動終了時には、もっと打ちたいという声が出るほど、打つことが楽しめた。

T 6 チーム分けします。力が均等な2つのチームに分けてください。

S 全員 男女別チームで話し合い

T 7 これで全部9人か10人になりました。次回からこのチームで、ゲームをやっていきます。ルールはまだ簡単なもので、リーダー中心にゲームを進めていってもらいます。男女混合のチーム作れたので目標達成です。挨拶して終わります。

※チーム分けは、打撃力を基に行ったのは、ゲームの中でもより攻撃を重視したためである。生徒自身でチームを組んだことで、生徒の自分たちで授業をつくっているという意識や意欲の向上にもつながったと考える。

4 4回目授業 7月11日(月)

T 1 今日は予告通り、ゲームをします。課題は「ティーゲームをして基本的なルールを知ろう」です。

T 2 チームごとに体操、ベースランニング、キャッチボールまでやってもらいます。

T 3 用具は全部持って行ってください。ゲームをなるべく長い時間やりたいので、駆け足で移動しましょう。

S 全員 チームごと体操・ランニング・キャッチボール(声を掛けながら巡視)

※観察者からは、スタート時の集合を真ん中にする、最初からチームごと整列させることで、授業の効率が良くなると指摘いただいた。

T 4 真ん中に集合してください。チームごとに並んで、今日の課題は何でしたっけ?

S 1 ティーゲームをして基本的なルールを知ろう。

T 5 今日はティーゲームをやりますが、全員打ってほしいので、打者一巡で攻守交代しましょう。ポジションは、交代しながらやってください。

S 2 野球経験者は、監督でありコーチでありキャ

プテン

- T 6 そうですね。野球経験者がいろいろ教えてあげてください。チームの中で、みんなが上手くなれるように頑張ってください。
- T 7 そして、ポジションは知っていますか？
- T 8 知らないという人もいるかと思って、簡単なクイズ作りしました。ポジション名の最初の一文字だけ書いた用紙を提示し、一つずつ確認した。
- S 3 ピッチャーは？
- T 9 ピッチャーは投げないけど、つけてください。
 ※最初のゲームとして、ルールを確認しなかったため、説明が長くなった。ルールの確認はゲームに入る前に全員で共有すべきだが、ポジションについては予習プリントを活用し、授業前に調べさせるなどの方法で、活動量を確保したかった。
- S 全員 ティーゲームを行う。
- T 10 打席は何巡しましたか？ 試合やってみてどうでしたか？
- S 4 2巡かな1.5巡かな？ 楽しかったです。
- T 11 明日も練習して、ゲームもやるので、その時は3巡も4巡もいけるように頑張りますよ！じゃあ今日は終わります。
 ※ヒットが出たり、守備で上手いったりしたときにはチーム全体で喜んでいて、しかし攻守交代でもたつき、ルールが不明なのかゲーム展開は遅い。フォースプレイとタッチプレイの違いについては、一度全員で確認しておく必要を感じた。

5 5回目授業 7月12日(火)

- T 1 今日の課題「試合で生かせる投げ方・捕り方を身に付けよう」です。みんなゲームやりたいのでは、と思うのですが…。
- S 1 やりたい!!
- T 2 昨日試合を見ていて、みんな初めてだからできなくて当たり前で、できないままやっても、ルールはわかっているからアウトに出来ない、投げられないからアウトに出来ない。今日は投げ方と捕り方を身に付けてから、試合で生かそう。
- T 3 それでやり方は、チームごとにまずキャッチボールからやって、あとゴロ。転がってきたボールの捕り方と、フライの捕り方の練習をしましょう。
- T 4 あとは、キャプテン！監督、コーチ中心にチームごと進めてください。
- T 5 一回全体で、投げ方と捕り方の形の確認、基本の確認だけしたいと思うので、野球部お手

本をお願いします。



図2 野球部員によるお手本

- S 2 お～！（拍手）
- T 6 K君投げるときのポイント！投げ方のポイントをお願いします。
- S 3 肩より肘を高くして投げる。
- T 7 そう、投げる手と反対の足を前に出してね。これ（手と足一緒）はやりにくいね。
- T 8 じゃあ次、ゴロをお願いします。K君ゴロ捕るときのポイントをお願いします。
- S 4 腰を下ろす。
- T 9 最後に、フライをお願いします。H君、フライのポイントは？
- S 5 フライを捕るときはちゃんとボールを見て、しっかり判断し額の前で捕る。
 ※ボールの投げ方と捕球については、野球部の生徒をモデルに確認を行った。一回ずつ区切って、打球と捕球ののポイントを言わせることで、さらにモデル生徒の活動が生きると感じた。
- T 10 ではここからチームごとにお任せしますよ。どうぞ！
- S 全員 チームごとに練習
 ※キャッチボールの後、まず捕る姿勢を確認しているチームや手で投げられた球を捕る練習をするチーム、一列に並んでノックを受けるチーム、グラウンドに入ってポジションにつきノックをするなど、様々な練習方法が見られた。チームごと練習内容に困ることなく進んできたのは、各チームに1名以上の野球部員がいたためである。
- T 11 場所チェンジしてください！
- S 全員 場所を交替して練習
- T 12 集合してください。これから練習内容を聞きます。1班何しましたか？
- S 6 ノック、あと正面に入って腰を下ろして、基本の体勢で優しく転がして捕る練習
- T 13 2班は？
- S 7 キャッチボールの後、捕ってからファーストまで投げるやつ。
- T 14 はい、より試合に近い形だね。3班は？
- S 8 キャッチボールから、ノックした後、ファーストに投げるのをやりました。

- T15 はい、4班は？
 S9 まずキャッチボールをして、そのあとにお互いに転がすのをやって、ノックをして、それからファーストに投げるのをやって、各ベースに投げるのもやりました。
 T16 結構たくさんやりましたね。みなさん、今日のリーダーさんはどうでした？教えてもらって、自分の投げ方・捕り方が上達した人？
 S10 ほぼ全員挙手
 T17 では、今日身に付けた捕り方・投げ方を使って、次回はより展開を早くして、打席も2巡・3巡と、どんどんできるようなゲームを楽しみましょう。これで終わります。

※チームごとの練習であったが、前時の試合から自分たちに必要なことは何かを考えさせ、その必要に応じて練習に取り組ませた。これは前時のゲームを見て、攻撃と守備のバランスが悪く、もう少し守備のレベルを上げなければゲームを楽しめないと感じたからである。これは生徒も同様に感じていたため、チームごと活発に活動が行われたと思われる。

6 6回目授業 7月15日

※授業開始前に急いでグラウンドに出てきて、バットを振ったり、キャッチボールをしたりする生徒の姿が見られた。これは、授業者の許可が出るまで用具に触れないよう制限していなかったからである。また、運動着に着替えてからグラウンドに出てくるのにもかわからず、授業に遅刻する生徒は一人もいなかった。

- S1 早く並ぼう。気をつけ、お願いします。
 T1 暑いですが、試合の時間をたっぷりとりたいため、体操、ベースランニング、キャッチボールまで一気にやってください。今日は、1班と3班が向こうで、2班と4班がこっちで、キャッチボールまで10分でできる？じゃあいくよ！
 S2 チームごと体操・ランニング・キャッチボールを行う。
 ※だんだんと活動の流れもつかめ、活動に入るまでがスムーズになった。どのチームも自分たちで活動を進めることができ、活動の切り替えについての指導をする必要はなかった。
 T2 チームごとに並んで、行動が素早いので10分で終わりました。今日の課題は？
 S3 展開を早くして、たくさん打てるようにしましょう！
 T3 それでは試合入る前に、「タッチプレイ」か

「タッチのいないプレイ」かの確認をします。ゲームの中でそういう場面が来たら、キャプテンに聞いてみんなでルールを確認してください。あと、相談ですが大学生でも女子は、フライが捕れなくてもグローブに触ればアウトという特別ルールを採用していますが、どうしますか？

- T4 女の子はどう？じゃあ多数決とります。
 S4 女子もいない派が多数
 T5 じゃあ、入れないでやってみよう。やっぱり必要だなと思ったら次回から考えよう。今日は、学習カードがあるので、記入してください。チームのめあてと打順、チームで話し合っ決めてください。書けたチームから移動します。

※男女混合での活動のため、女子も自ら積極的にボールを捕球するための特別ルールを提案したが、そのようなルールは不公平なので必要ないと答える生徒が圧倒的に多かった。教師が一方的に設定せずに相談することで、生徒の思いを大事にした授業づくりの大切さが確認できた。

- S5 1班早く！早く集まって！
 S全員 それぞれ移動しゲームを行う。
 ※練習の成果か、捕球を怖がる生徒が減った。声もよく出ていて、プレイの前にランナーを確認したり、守備のパターンを教え合ったりなど、少しずつソフトボールらしくなった。
 T6 集合して、チームごと反省してもらいます。
 S全員 チームごとの反省をリーダー中心に行う。
 T7 整列してください。時間がないので一つだけ。みんな勝ちたくて熱くなるのはわかるけど、怪我に気をつけてやりましょう。また来週も試合やるので、気をつけて楽しくやりましょう。はい、じゃあ今日は終わります。

7 7回目授業 7月20日(水)

- T1 こんにちは。暑いですけど、頑張りましょう。
 T2 では今日は、明日からリーグ戦やるので、ルールの最終確認をしてもらいます。今日は1班対4班こっちで、2班対3班が向こうで、またチームごとに体操とランニングとキャッチボールまで一気に終わらせましょう。
 S1 はい、うちのグループ、集まった人から始めるよ！
 S全員 チームごとウォーミングアップをして、作戦会議を行う。
 ※Aグループではリーダーである野球部の生徒が積極的に指示を出し、練習に取り組んでいた。野

球経験はあるが、リーダーシップをとるのが苦手な生徒がリーダーになっているチームでは、女子が練習を進め、ルールや動作の確認を野球部の男子が行うなど、役割を分担していた。

T 3 今日の課題は「リーグ戦に向けてルールの最終確認をしよう！」です。確認してほしいことは、打ったボールがフライかゴロかによってランナーはどうするか、そして守備はどうするか。ランナーがどこにいるかを確認して、守備をする。今日でルールを完璧にしたいね。さらに前回、最後に何を言ったでしょう？

S 2 ケガをしない、させない。

T 4 それです。じゃあ試合いきましょ。整列後、挨拶して始めてください。

※ゲームでは、女子もバットの芯でボールをとらえてきた。また作戦として、相手のポジションを見て打つ方向を変えるなどしていた。リーダーを中心にチーム全員で声を出し、ランナーや守備者に指示を出す様子が見られ、チームに一体感が出てきた。ゲームの時間を長くするため攻守交代もテキパキと行うなど、展開も非常にスピーディーになってきた。

T 5 終了です。さて、ルールはどうでした？みんな打つのも捕るのも投げるのもかなり上手になりましたが、さらに1つだけ、バットを投げないでください。じゃあ今日はこれで終わります。

8 8回目授業 7月21日(木)

T 1 いよいよ、残り3回となりました。そして最後、リーグ戦になります。

S 1 イェーイ！ワーイ！

T 2 今日からの3回リーグ戦の課題です。「チームの特徴に応じた作戦を立て、安全に楽しく勝利を目指そう」です。

T 3 相談ですが、投げたボールを打ちたいって声が多く聞こえました。でもピッチャーは、ちゃんとストライク入りますか？ただ、それで時間がかかり全員打てなくならないようにしてください。それでいいですか？

S 全員 はい。

T 4 15分とるので、体操、ランニング、キャッチボール、そのあとチーム練習してください。さらに、作戦として打順とポジションを決めてください。それから今日のめあてを話し合っ、12時になったら試合を開始します。

S 全員 チームごとに練習・作戦会議を行う。

T 5 練習時間残り5分です。

T 6 時間になりましたので、整列して試合を始めてください。

S 全員 ゲームを開始する

T 7 もう時間ないから3人もいけないわ。道具しまつて、チームごと反省してください。

S 全員 チームごと反省をし、整列する。

T 8 ピッチャーが投げたゲームをやってみてどうでしたか？

S 2 時間かかる。終わらなかったの、全員ティーがいい。

T 9 じゃあティーで統一しましょ。じゃあ明日からティーでたくさん打ちましょ。

※生徒のピッチャーの球を打つてみたいという声から、どちらか選択してゲームを行った。授業者としては、練習もせずピッチャーをつけると、時間がかかることは予想できたが、生徒の声を尊重し取り入れた。結果、生徒たちもピッチャーをつけると時間がかかってしまうということを学び、生徒たち自身でティーによるゲームを選択した。

9 9回目授業 7月22日(金)

T 1 これ昨日の結果です。今日は1班対3班、2班対4班です。リーグ戦の課題は？

S 1 チームに合った作戦を、安全に楽しく、勝利を目指そう。

T 2 チームの特徴に応じた作戦を立て、安全に楽しく勝利を目指そうでしたね。昨日負けたチームは、今日こそ勝てるようにしっかり話し合ってください。勝ったチームはさらに勝てるように、頑張ってください。昨日の最後確認しましたが、全員ティーの統一でいいですね。

S 全員 はい。

T 3 15分間で、チームごとに体操、ランニング、キャッチボールと練習、話し合いもして、時間になったらすぐ試合しましょ。

S 全員 チームごと体操・ランニング・キャッチボール・練習を行う。リーダーがボールを転がしチームのみんなが捕球している。ノックをしているチームもある。

T 4 それでは整列して試合を開始してください。

S 全員 ゲームを行う。



図3 試合の様子

※展開が非常にスムーズであった。バッターによって守備位置を変えたり、チーム全員がコーチャーのように声を出したりなど、まるで部活動のような活気が出てきた。それは、ルールの理解から、攻守のバランスが保たれ互角な戦いができ、勝負を楽しめるレベルまで技能が上達したためといえる。

T 5 終了！片付けて、チームで反省してください。

S 全員 リーダーを中心に試合を振り返り、最終戦に向けてチームごと反省を行った。

T 6 最初の場所に並んでください。今日の試合はどうでしたか？

S 2 楽しかったー！…けど負けちゃった…

T 7 昨日より早く回った？

S 3 3回表まで行けた！

T 8 おー！やっぱりティーだと早いね。それでは、残り1試合頑張りましょう。具合が悪い人、怪我した人いませんか？戻ったら水を飲んでください。

S 先生 ごめんなさい。一言だけ、ただ勝つことだけに集中しすぎて、例えば相手のチームのミス喜んでみたりとか、ミスをあおってみたりとか、そういうところはちょっと違うのかなって気がします。よろしくお願ひします。^{注4)}

T 9 課題にもあった楽しくってどういうことか、もう一回考えてみてください。じゃあ、最後まで安全に楽しくやりましょう。はい。では終わります。

※今日のゲームの様子から、作戦を考えながら勝敗を競うことを楽しめるまでに上達してきた。しかし、勝敗にこだわりすぎるあまり、相手をけなす言葉やミスをあおるような言葉が飛び出してしまう場面も出てきた。これは、授業の最後に観察者から指摘されたことだが、授業者は気づかなかった。授業者としてゲームのレベルが向上したことは非常に嬉しいが、それだけでなくゲーム中の生徒の態度にも注意したい。

10 10回目授業 7月25日(月)

T 1 お願いします。さあ、いよいよラストです。試合の前に確認したいことがあります。前回、最後にS先生がお話してくれたことを覚えていますか？

T 2 今日はまとめの時間を最後残しておきたいので、アップの時間を10分間にしたいと思います。テキパキやってください。

T 3 今日は、1班と4班があっちで、2班と3班がこっちでやってください。それでは、10分間でアップしてください。

S 1 早くー急いでー！終わった人からキャッチボール。ちょっと聞いて、今日ノックたくさんやりたいからキャッチボール30球で、エラーしたのは数えないでよ！

S 全員 チームごとに活動を行う

※ゲーム時間を長くとりたいためか、動きがテキパキとしていた。これは、単元スタート時と比べると大きく成長した点である。自分たちでゲームの時間を意識し行動が素早くなった。生徒のできるだけ長くゲームの時間をとりたいという気持ちが行動から読み取れた。

T 4 試合始めていいですかー？整列して始めてください。

S 全員 それぞれゲームを行う。

S 2 キャー！やったー！逆転ー！

T 5 時間です。試合終了！

S 3 1班！早く集まって！

S 全員 チームごとの反省では、一人一言ずつ感想を言い合い、活躍した生徒にヒーローインタビューをしていた。

※リーグ戦で勝敗にこだわる生徒も多くなり、さらにソフトボールを楽しんでいた。守備ではチームで連携した声を掛け合い、ボールを呼ぶようになったので、指示がなくても一人ひとりが考えてプレイできるようになった。攻撃では、相手の守備位置や点数差を考えて作戦を練り、打ち分けを意識したチームもあった。基礎練習に時間をかけず、ゲームの中でルール理解、技能の上達を図ることは、それらの向上と同時に、作戦を考える力や相手を見ながら戦うことなど、より実践的な思考力までも養うことができるという可能性が見出された。

T 6 整列して腰を下してください。じゃあまず、結果発表から行きますか。なんと、2・3・4位は1勝2敗…だったので、得失点計算で順位つけました。

T 7 1位1班！ → S 4 イェーイ！（拍手）

T 8 2位4班！ → S 5 えっ！？ヤッター！

T9 3位2班! → S6 イェーイ!

T10 4位3班! → S7 イェーイ!

※リーグ戦の結果は、3チームが同じ勝敗数だったことから、得失点差により順位を出した。また、負けたと思っていたチームが、得失点差で2位になり、驚きと喜びの声が出た。最下位のチームは、結果は悔しかったろうが、ゲーム中は一番と言っているほど楽しんでた。

T11 でも3班ね、すごく楽しそうに試合していて嬉しかったです。それが一番!では、一言ずつ、1班から順番にリーグ戦を振り返っての感想をお願いします。

S8 えっと、最初のリーグ戦の1試合目と2試合目は、まあゲームみんなで協力してできたけど、最後の試合でいっぱいミスがあり、チームの雰囲気が悪くなくて、でもみんな楽しめたようだし、ほとんどの人がちゃんと打って塁に出られたから、いいリーグ戦だったと思います。(拍手)

S9 今日…楽しく…みんなとソフトボールができたので、よかったです。(拍手)

S10 えっと、ほとんど負けてしまったけど、みんな楽しくできたので、実りのあるソフトボールでした。(拍手)

S11 えーっと、リーグ戦を通して1班に負けただけど、まあホームラン打つ人は打って、すごい守備上手い人もいましたし、今日の試合で奇跡と思われるプレイが2つも…

T12 ありがとう。みんな楽しくできたと言ってくれましたが、楽しかったですか?

T13 最後に私から一言。先生が一番驚いたことは、みんながすごく上達したことです。最初キャッチボールもままならない感じでしたが、試合重ねるうちにどんどん上達して行って、楽しそうにやれて嬉しかったです。男女一緒のチームにして教え合いとかそういう姿も見られたので、このあとの体育の授業とか、来年のソフトボールの授業ももっと楽しんでもらいたいと思います。はい、では先生の授業は以上で終わりです。ありがとうございました。

S全員 ありがとうございました!(拍手)

※単元を終え、生徒から「楽しかった」「もっとソフトボールやりたい」という声を聞くことができた。この生徒の姿や声から、本研究での授業実践の内容が、本学級の実態に合っていたと考える。生徒の実態を知らず実践を開始したが、少しずつ修正を加え生徒と合意しながら授業を進めていく中で、生徒との信頼関係も築くことができた。本実践から未習熟者が多い学級でも、実態に応じ

たゲーム中心の授業を行うことは、有効であると実感した。

11 アンケート結果から

11-1 事前アンケート

本実践でのソフトボールや野球の経験者は83%(30人)で、未経験者は17%(6人)であった。そこで、ソフトボールを体育の授業で行う事について、どのように思っているかという質問に対しては「とてもやりたい」44%(16人)と「やりたい」47%(17人)に対して、「やりたくない」6%(2人)と「とてもやりたくない」3%(1人)という結果であった。

また、ソフトボールの授業で、楽しみは何かという質問に対しては「打つこと(バッティング)」「試合をすること」「キャッチボール」「チームの人と協力すること」「みんなと楽しみたい」といった記述が見られた。反対に、ソフトボールの授業で、不安なことに対しては「打てるか不安」「ルールが分からない」「ケガ」「上手にできるか」「苦手なのでみんなの足を引っ張ってしまうのではないか」といった記述が見られた。

さらに、ソフトボールの授業で、どんなことができるようになりたいかかという質問に対しては「ヒットを打てるようになりたい」「ホームランを打ちたい」「相手に向かってしっかりボールを投げられるようになりたい」「フライをキャッチできるようになりたい」「楽しんでソフトボールをできるようになりたい」といった記述が見られた。

最後に、どのような授業にしていきたいか、願いや要望についての質問に対しては「楽しい授業にしてほしい」「わかりやすい説明」「アドバイスをしてほしい」「実践練習を多めに、試合もたくさんしたい」といった記述が見られた。

11-2 事後アンケート

本実践によるソフトボールは楽しかったかという質問に対して「とても楽しかった」94%(34人)「楽しかった」6%(2人)という結果であった。そこで、ソフトボールをもっと授業でやりたいかという質問に対しては「とてもやりたい」86%(31人)「やりたい」14%(5人)という結果であった。さらに、今回のソフトボールの授業を通して、仲間とともに技能を高めることができたかという質問に対しては「とても思う」80%(29人)「思う」17%(6人)「不明」3%(1人)という結果であった。

この授業を、100点満点で数量化するとともに、その理由を記述させたところ、100点満点とした生徒は50%(18人)で、その理由としては「皆で安全に楽しくソフトボールができたから」「上達して行って楽しくなったから」「試合に負けても励まし合ったりして楽しめたし、技能的にも上がったと思うから」「あまりソフトボールは好きではなかったけど、投げたり打ったり日常ではし

ないことを体育で出来て楽しかったし、学べたことが多かったから」「チーム同士で声かけもすることができたし、チーム一緒に技術を高めることができたから」といった記述があった。

90点台とした生徒は44%(16人)で、その理由として「少し言い合いになってしまったけど、アドバイスし合って楽しいと思って終われたから」「楽しかったけど、最後の試合で少し雰囲気が悪くなってしまったから」「皆で協力してできたし、上手になれたけど、もう少し遠くまで球を飛ばしたかった」「あんまり打てなかつたので-10点」「守備は上手いかなかったけれど、仲間と声を掛け合って頑張れたので良かった」という記述があった。

80点台とした生徒は1名であり、その理由は「ボールをキャッチすることがあまりできなく、チームの役に立つことができなかつたため。しかし、チームの人と協力して1回だけ勝つことができて、すごく楽しかった」と記述があった。

79点以下とした生徒は1名で、その理由は「キャッチャーをするときランナーをアウトにすることができなかつたし、バッターでは打つことができて1塁に行くのが限界で、ほぼチームの役に立てなかつたから」という記述であった。

また、ソフトボールの「打つ、投げる、捕る、走る」といったプレイで楽しいと感じた順番についての回答は1位「打つ」56%(20人)、2位「投げる」と「捕る」14%(5人)、4位「走る」11%(2人)であった。

最後に、授業全体の感想についての自由記述では「本当に楽しかったです。これからもいろいろな人と協力して、全力で体育の授業に取り組んでいきたいです」「試合がたくさんできて、楽しかったのでよかった」「アドバイスが分かりやすく良かった」「みんなで協力することができて、とっても楽しかったです」「楽しくみんなが上達してよかった。男子・女子が混合でやってよかったと思いました」「あまり上達はしなかつたけれど、楽しく学べてよかったです」「とても楽しかったです。またやりたくなり、ソフトボールが好きになりました」「チームの人とは作戦などを立て、体を動かすだけでなく頭を使って、どう楽しむか、どう勝つかを考えることで、今回の体育がとても意味のあるものになりました」「思っていたよりたくさん試合ができたことで上達できた」などの記述があった。

IV 考 察

1 機能的特性の重視

今回のソフトボール実践では、ゲームを中心に授業を計画した。けれども、4回目のゲームで攻守のバランスが取れないと授業者が判断し、次の時間にチームごとの守備練習を行わせた。この練習では、その必要性が理解できており、生徒の活動は主体的なものとなった。

ソフトボールは競争型のスポーツであり、その機能的特性として勝敗を競い合うことに楽しさを見出すことができる。しかし、技術習得が不足している場合は練習を重ねることとなり、それが長く続くと生徒の意欲が減退することが懸念される。そこで、単元の最初よりゲームによる楽しさ体験が連続する活動の行い方やルールづくりが求められた。これは、技能が高まるまでゲームを我慢するのではなく、今持っている力でゲームを楽しむこととなる。さらにゲームを楽しむために、自分たちの課題に応じた練習を行うことも含まれる。

このような授業計画が生徒の実態に合致していた事により、事後アンケートに見られる「とても楽しかった」と、いう授業の満足度が導き出せたと考えられる。

2 行い方やルールの工夫

本単元では、事前アンケートにあったように生徒が様々な不安要素を抱えていた。それらを解消するには、個々の練習時間を多く取ることになるが、易しい用具やルールを採用することで試合時間を確保した。このようなゲームに必要な最低限の技術練習から、試合を重ねながらルールを理解しつつも技能が向上することは、生徒の事後アンケートからも明らかとなった。

また、3時間目のチーム編成、ピッチャーの投球によるゲーム、女子の捕球に関するルールの取り下げなどルールに関しては、生徒との合意形成により決定したことが、自分たちで授業を創っているという思いを引き出したと考えられる。この授業は、教師の指導によるものだけではなく、自分たちの思いも受け入れられるという雰囲気があったからこそ、生徒からのルールに対する提案が生まれてきたと思われる。

3 生徒の自発的な取り組み

授業者は、最後のまとめで「先生が一番驚いたことは、みんながすごく上達したことです」と述べた。生徒自身も事後アンケートから、自分たちの技能やチーム力の高まりを感じていたことが明らかであった。授業記録にも、さらに活動を盛り上げようとする生徒の声がいくつか記述されている。

本実践では、各グループに最低一人は野球経験者を配属し、リーダーシップを発揮させたことで、チーム練習や試合を生徒に委ねることができた。今回は、それがチームに応じた練習の違いにも見て取れた。

さらに、生徒の始業前に活動場所まで走って来たり、自ら用具を準備したりする姿は、教師の指示によるものではなかつた。これは、生徒がソフトボールの魅力に触れ、もっと行いたいという思いから生まれたといえる。

4 授業の流れ・指導方法

本実践では、ティーボールにより、打者一巡で攻守交代するというルールから打つ機会を均等に与えること

で、生徒の活動差を少しでも解消しようと試みた。また、交代の回数を減らすことで移動時間も削減できた。

それでもソフトボールの攻防には時間がかかる。中学校では、運動着に着替え、グラウンドに移動し、準備運動をして課題を確認すると、試合に25分割くことは難しい。そのため、授業を2時間続きにする時間割の組み替えを提案したい。(家庭科の調理実習では、そのような時間割の組み替えを行っている学校は珍しくない)

本実践のように全10時間の単元であれば、2時間続きの授業を5回とするほうが、ソフトボールの特性をより味わえる授業が展開できると思われる。(事後アンケートでは、7イニングで試合をやってみたいという意見もあった)

V まとめ

本実践では、ソフトボールの機能的特性を中核にした単元展開について、アンケートによる生徒の満足度から、その有効性を示すことができた。生徒の実態に合わせて易しい用具や方法でゲームを行った事により、個々の技能の向上やルールを理解を深められる事が確認できた。

この授業の実際については、授業記録より見て取れるが、ここで得られたのは、生徒がソフトボールをもっと楽しみたいという思いから、教師が予想していなかった自発的な取り組みを発揮した事である。それは機能的特性を核にしながらも、生徒とともに授業を創るという授業者の姿勢が、このような授業の雰囲気を作り出したといえる。

しかし、本実践の課題としては、活動の時間経過を加えつつ、その内容を项目的に整理する事で、よりわかりやすい授業記録とする事が求められる。

また、今後の研究では、50分という授業時間はソフトボールのゲームには物足りなさを感じるため、2時間続きの授業で実践した場合、ゲーム内容がどれだけ豊かになるのか、さらなる授業実践により明らかにしていきたい。

注

注1) 2012年度に実施された動向調査の結果を2014年に発表している。

注2) 一般的なソフトボールと同じ大きさだが、表面は天然ゴムで芯は発泡ウレタンで構成されており、一般的なものと比べ柔らかく未習熟者にも恐怖心が少ない。

注3) ここでの記録として「S」は生徒の発言・活動、「T」は授業者の発問・指導、それぞれに通し番号をつけて順序性を明確にした。なお「S先生」は観察者である教科担任である。ここではより授業の様子が浮き彫りになるよう、授業者の気づきも「※

(斜体文字)」として加えた。

注4) 本実践は、学生の出前授業によるものであるため、教科担任が終始授業を見守り、授業者にコメントを与えるとともに、万が一のトラブルに対して対応できる体制をとることで管理職の許可を得ることができた。

文 献

- 榎本裕一・松井貴代美(2006) 保健体育科学習指導案。さいたま市春里中学校。
http://www.saitama-city.ed.jp/03siryo/sidouan/j/j_hotai/18nendo/1/0150607807球技ソフトボール.pdf (参照日2019年1月30日)。
- 入澤裕樹, 森本吉謙(2008) ソフトボール授業における未習熟者に対する打撃指導のための教材開発—大学生を対象に一, 仙台大学紀要40(1):125-132。
- 岩間英明(松本大学)・二瓶雄樹(中京大学)(2014) 学校体育におけるソフトボールについて—楽しいソフトボール授業の指導事例—, 全日本大学ソフトボール連盟機関誌ウィンドミル第17号, www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/P9-1.pdf。(2017年1月20日)。
- 川原隆嗣(2012) 第1学年保健体育科学習指導案。揖斐川中学校。
<http://www.ikedanet.jp/ibikyokuiku/data/2012/24%20tyuu1%20hokenntaikku.pdf>。(参照日2019年1月30日)。
- 北徹朗, 山本唯博(2009) ソフトボール授業の運営法—少人数(10人程度)で授業せざるを得ない場合のアイデア, 大学体育36(2):157-159。
- 近藤美咲・坂上翔一郎(2011) 保健体育科学習指導案。昭島市立瑞雲中学校。
<http://www.cyutaiken.net/23lessonbaseball.pdf>。(参照日2019年1月30日)。
- 宮城耕治, 岡本昌規, 合田大輔, 高田光代, 三宅理子, 三宅幸信, 岩部順, 生関文翔, 上田毅, 齊藤一彦,(研究協力者)足立達也(2016) 運動有能感を高めるソフトボールの授業:統制感を伸ばす, 広島大学学部・附属学校共同研究紀要44号:287-296。
- 文部科学省(2009) 中学校学習指導要領解説保健体育編。東山書房:京都, pp.83-95。
- 文部科学省(2018) 中学校学習指導要領解説保健体育編。東山書房:京都, pp.138-139。
- 永島惇正(1992) 中学校体育実践指導全集 6 球技, 日本教育図書センター:東京, p.24。
- 日本ソフトボール協会, 学校体育ソフトボールガイドブック。
www.softball.or.jp/info.../softball_in_school_rulebook.pdf。(参照日2017年1月15日)。
- 佐伯聰夫(1980) 運動の特性と子どものつまずき, 体育

科教育, 28 (10) : 31-38.

鈴木秀人 (1998) SPASS 中学校体育・スポーツ教育
実践講座 第8巻相手チームに力一杯挑戦する球技
の授業, (株) ニチブン: 東京, p.237.

鈴木留美子 (2009) 一人一人が打撃の充実感を味わう
ベースボール型の学習. 神奈川県体育センター長
期研修研究報告. [http://www.pref.kanagawa.jp/
uploaded/attachment/2447.pdf](http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/2447.pdf). (参照日2019年1
月30日).

高田俊也, 元塚敏彦, 岡沢祥訓 (1990) ソフトボールの
授業における技能レベルと授業評価の関係, 奈良教
育大学教育研究所紀要26巻: 1-12.

竹田唯史 (2003) 生涯学習に発展する体育授業の試み (3)
—女子大学生を対象としたソフトボール授業につい
て—, 「生涯学習研究と実践」: 北海道浅井学園大学
生涯学習研究所研究紀要 Vol.5, 175-190.

吉田隆 (1998) 生涯体育をみすえた安全でスピーディー
なソフトボールのゲームをめざして, 大阪教育大学
附属高等学校池田校舎研究紀要31: 5-12.

〔平成31年4月18日 受付〕
〔令和元年8月28日 受理〕